

2025 年度

湘南白百合学園中学校

入学試験問題

国語

帰国生入試 45 分

受験番号		氏名	
------	--	----	--

○受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

【一】 次の——線部の漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

- ①「直ちに集合しなさい」と指示があった。 ②海産物の売買をする。 ③臣下として忠誠を誓う。 ④識字率が高い国。
- ⑤戦争の恐ろしさを説く。 ⑥「両親」と「父母」はルイギ語だ。 ⑦ピエロのカソウをする。 ⑧つり糸をタラす。 ⑨脂がのってこえた秋刀魚。
- ⑩落ち葉をヒロイ集める。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大学生の頃に京都の田舎で、3畝ほどの小さな田んぼを借りて無農薬の稲づくりをしていた。数人の有志で、車で2時間ほどかけて時々田んぼに行って、その近くにある小さな小屋で寝泊まりして農作業するというもので、田んぼは農家の人から無償で貸してもらっていたので、今考えるとずいぶんと恵まれた体験をさせてもらっていたものだ。そこに集う人々は、学生と、ちよつと怪しげなお兄さんと、ちよつと怪しげなおじさんなどがいたが、夜は酒を飲みながら他愛もない話をして過ごすのが常だった。ある時、そのちよつと怪しげなお兄さんの一人が「人に迷惑をかけることなんて、何でもない」というようなことを言ったことに、僕はひっきり「なんで人に迷惑をかけていいんですか？」と、突っかけてしまった。そのお兄さんはちよつと困った顔をして、「いやいや、そういう話じゃないんだけど」みたいな、答えのような答えになってないようなことを言ってお茶を濁し、話を流してしまった。もうずいぶん前の話だが、その時のことは何かずつと心に残っていた。

「人に迷惑をかける」と「人に迷惑をかける」ことの、どっちが良いかと言えば、その答えは明らかかなように思える。そうでなくても僕たちは日本人だ。「人様に迷惑をかける」を念仏のように唱えて育てられてきた。「人に迷惑をかけることを何とも思わない」と言わんばかりの言葉に、当時の自分は少し憤りを感じたのだと思うが、今はそのお兄さんが何を言いたかったのか、少しわかるような気がする。

ブフネラという生き物

ブフネラというアリマキ(アブラムシ)と共生している細菌がいる。アリマキは植物の害虫で師管液を*吸汁して生きている。師管液には光合成に由来する糖分が多く含まれているが、タンパク質のもととなるアミノ酸はほとんど含まれておらず、アリマキは常に糖分過多である。ブフネラはそんなアリマキにアミノ酸を合成して与え、その代わりに過分にある糖をもらって生きている。ブフネラとアリマキの共生は細胞内共生という少し特殊な形態で行われており、アリマキは体内に菌細胞という特別な細胞を作り、ブフネ

らはほぼ一生をその菌細胞の中だけで過ごすことになる。彼らの共生の歴史は長く、共生生活を始めてからすでに2億年になると推定されている。2000年に日本人研究者によって、このブフネラのゲノム配列が決定されたが、その結果は驚くべきものだった。

ブフネラは私たちの腸内にいる大腸菌と*2近縁の細菌だが、大腸菌と比べると持っている遺伝子の数が約7分の1になっていた。これはアリマキの菌細胞内での長い共生生活の間に、アリマキ側から提供してもらえないものは、自分で作る必要もないよねと、どんどん遺伝子を捨てていった結果と考えられている。私たち人間も、たとえば結婚すると、それまで別々にもっていた洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか、二つあっても仕方のないものがたくさん出てきて、人にあげたり捨てたりして処分することがあるが、それと同じようにブフネラは自分の遺伝子を次々と処分してしまい、気づけば2億年の間に遺伝子の数が7分の1になってしまったということらしい。

しかし、そんなブフネラは当然もうアリマキと離れては生きていけない。大腸菌なら人の体内から外に出て、たとえば川でも池の中でも生きていけるが、ブフネラはアリマキの体から取り出すと、自然界では生きていけないし、人工的にどんな栄養素を与えても*3培養すらできない。自分ひとりでは外敵と戦うことはおろか、自分の細胞膜さえ作れないのである。大学でそんなブフネラの話を紹介すると、ブフネラはもう生物じゃない、という意見が出てくる。ブフネラはアリマキの体外に出てひとり生きていけない以上もうアリマキの一部であり、一人前の独立した生物として認めることはできないということだ。ブフネラの生態を考えれば、もっともな意見である。

つながりの中で生きる

しかし一方で、果たして「独立して」生きている生物など、本当にいるのだろうか？とも思う。たとえば人間はどうだろう？ 私たちの食べ物は、野菜であれ、肉であれ、他の生物に依存している。実はアリマキと同じで、人間はアミノ酸のいくつかを自分で充分な量作ることができず、他の生物から摂取しなければ生きていけない。人間は肉や魚といった食物からそれらを得ており、ブフネラのように特定の生物に依存しないと生きていけない訳ではもちろんない。ただ、改めて考えてみれば、依存する生物が生きているか死んでいるか、あるいは特定なものか不特定多数かといったことに、何か本質的な違いがあるだろうか？ また、人間は呼吸によって酸素を得ているが、それは陸上の植物や海の藻類などが光合成をすることで生み出されたものだ。つまり食物にせよ、それに含まれるアミノ酸にせよ、呼吸のための酸素にせよ、それらはすべて他の生物の存在に依存している。

そう私たちは、牛や豚やニワトリに、迷惑をかけながら生きている。それが私たちの本当の姿である。そしてそれは程度の差こそあれ、人間だけでなく現在この地球上に存在する①すべての生物に共通する姿と言ってよい。たとえば他の生物を捕食することのない植物であっても、光合成に必要な二酸化炭素は、他の生物の呼吸によって大気中に供給されている。また植物の多くは菌根菌という共生菌の存在がなければ、土から十分な養分を吸収することができない。決して「独立して」生きている訳ではないのだ。この世界は、すべてを完璧にこなし、他の生物の助けなど必要のない生き物たちが集まってできているのではなく、それ単独では生きていけない、不完全でいびつな生き物で溢れている。そして、それらがお互い補い合い、つながって全体の存在を可能にしている。それが「生命」の本当の姿である。

そして人間社会もその縮図である。周囲を見渡せば、植物のように基本的には多くのことを自分でこなす独立型の人もいれば、他人の助けがなければ生きていけないような従属型というか、寄生的な人たちもいる。そんな寄生的な人たちは一般的に言えば「迷惑」な存在だろうし、自分のことくらい自分でやって欲しいと思うのが人情である。しかし、この世からすべての「迷惑」がなくなれば、より良い世界になるかと言えば、必ずしもそうではないと、今は思う。

日本では「人様に迷惑をかけないように」と教えられて育つが、インドでは「お前は人に迷惑かけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」と教えられるそうだし、それは社会というものが、そういった双方向の「迷惑」を介してつながっていることを教えてくれている。何かより豊かな世界観ではないだろうか。

そうなのだ。もうう側に喜びがあれば、実は与える側にも喜びはある。親子関係などは、その最たる例だろう。その関係が強制や過度に一方的なものでない限り、「迷惑」がまったくない世界より、②より豊かで喜びに満ちた世界が「迷惑」により生まれてくる可能性はあるのだと思う。あの怪しげなお兄さんはそういうことを言いたかったのだろう。

（中屋敷均『わからない世界と向き合うために』
なかやしきひとし）

（注） ＊ー吸汁……養分を吸い取ること。

＊2 近縁……近い関係にあること。

＊3 培養……細胞や細菌などを人工的に増殖させること。

問一——線部①「すべての生物に共通する姿」とありますが、これはどのようなことですか。——線部の段落全体をふまえて、四十字以上、五十字以内で答えなさい。

問二——線部②「より豊かで喜びに満ちた世界が『迷惑』により生まれてくる可能性はある」とありますが、これはどのようなことですか。

次の①②③の指示にしたがい、あなたの体験をふまえて、六〇〇～八〇〇字以内で答えなさい。

- ① 解答用紙は縦書きで、一行目から始めること。

② 表記は原稿用紙の使い方にしたがうこと。

③ 文章全体は適切な段落で構成し、わかりやすく書くこと。

2025年度

湘南白百合学園中学校 帰国生入試【国語】

No.1

受験番号		氏名	
------	--	----	--

⑥	①
	ち に
⑦	②
⑧	③
ら す	
⑨	④
え た	
⑩	⑤
い	く

[illegible]

湘南白百合学園中学校 帰国生入試

氏名

No.2

[illegible]

受験番号

氏名

問二

[illegible]

800 字

600字

No.3